



発行所
財団法人 漁船海難遺児育英会
東京都千代田区神田
2丁目2番1号
鎌倉海岸ビル内
電話 03(254)7543
印刷 (株)連合印刷センター
電話 03(582)8541



財団法人 漁船海難遺児育英会

理事長 鈴木 幸

あけましておめでとうございます。
奨学生の皆さんには、それぞれ希望に満ちた新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。どうぞ、本年も実りある一年にして下さい。

育英会は、皆さんとともに歩み、本年は早くも九月目に入りました。まだ、皆さんの御期待にそえないことが多く心苦しく思っておりますが、幸い、全国の漁業関係者及び一般国民の皆さんの暖かい御支援が寄せられておりますので、私も直接この事業にたずさわるものとして、一層の努力をいたす覚悟でございます。

遺族の立場で、社会保障問題を考えるべきです。そこには制度間の保障格差の問題から、「母の声」として出ている切実な問題もありました。これらの問題は、遺族だけのものではありません。

漁業と社会保障 (3)

漁業は、大自然の中で成立つ産業です。時には不可抗力による事故がおきます。これに備えるのが社会保障といえます。しかし、社会保障制度は、漁業従事者すべてに老後生活の安定に役立てるものでありたいと願います。

会福祉を増進させる基本はなにか、を考へてみる必要があります。そこには漁業に従事するすべての人々の労働の安全がまず確保され、家族全員が

新年のちがひ

岩手県大槌高校

三年 小笠原美保子

私の家族は、母・妹・私の三人です。私は、もう十七才になり、今年高校三年生になります。

今まで、いろんなことがありました。私と妹が幼なかつた頃、母は私たちを育てるために苦労したようです。私はよく「父が生きていれば……」と思いました。でも、今にしてみれば、現実をもっとみつめ強く生きていかなくてはならないと思います。

新年も何日かたちました。目標をしっかりと立て、がんばりたいと思っております。第一に、高校卒業後は就職するので、もっともつと勉強に実を入れるがんばること。第二に、健康です。おな人でありたい。第三は、三年生になると、クラブ活動も長くて七月頃までで終わりにするので、一生懸命やること。そして、何ごとにも誠実でありたい。

ところで、私は今日まで明るく育ったのは、学校の友達の影響もありですが、家族三人が一つになってたすけ合

さて、遺族にとり公的年金は、まさに生活を支える大きな力です。だが、現状は、これだけで家族の生活を維持することはできません。健康を害しておられる母も多いし、職を求め必死に働いておられる母が大部分です。母が亡くなられた父にかわり一家の柱となつて働かざるをえません。ところが、前回にもふれましたとおりわが国経済の現状、なにかと漁業情勢の変化の影響が、母達にとり身近な職場である水産加工業等関連部門にも大きくのかかつてきたという問題があります。

海難遺児を励ます運動の一環として、皆んなの力で、母達の働き場の確保等より相談相手になるようお願い申し上げます。

(事務局次長 手島弘平)

つて生きてきたからだと思ひます。これからも明るく生きて行きたいと思ひます。

(〇二八一一 岩手県上閉伊郡
大槌町泉町二八一二一一)



ぼくのお父さん



和歌山県有田市田鶴小学校
五年 児島 賢嗣

ぼくのお父さんは、昭和五十二年三月四日雪の降っている日に、蒸気の船(タンカー)にやられられて、遠くまでとばされ、少しの間泳いでいたがしんぞうまひで死にました。

お父さんの船の船長は、船のガラスをやぶり柱をつたって上り助けを呼んで助かった。お父さんも助けを呼んだが、しんぞうまひで死んだ。だから沖を通る蒸気をみると、お父さんのことを思い出します。

そう式の日、蒸気の会社や船長はきませんでした。みんな来るべきだといつておりました。もうすぐ一年になります。そう式にこれならなかつたら、いつでもいいから顔を出し、おまわりしてほしい。

お母さんの話では、蒸気の船長はやめたそうです。

船長が首になつても、さいばんでお金がもらえても、ぼくのお父さんはもどつてこない。いくら、お父さんを返せ! 返せ! といつても、もどつてこないから、このような事故をしないようにお願いします。

それから、船長さん一度でいいから顔を見せて下さい。お父さんも天国で喜ぶと思います。このままだと、船長がはがいいです。家族、親せきみんなの願ひです。

(六四九一〇三 和歌山県有田市
宮崎町二三〇五)

『募金・寄附金』お礼

昭和五十二年十月から十二月までに御協力いただきました漁協系統募金及び一般寄附金は、次のとおりです。年末には今年も水産庁、全漁連をはじめ漁業関係団体の役員の方から暖かい募金をいただきました。ここに御芳名を掲げ厚く御礼申し上げます。

○漁協系統募金

十・十二月計 九、一七七、八七六円
四・十二月合計 一四、三五四、八七六円

○一般寄附金

十・十二月計 二六、一六九、四四七円
四・十二月合計 四〇、九六四、六四五円

○四・十二月総計

五五、三一九、五二一円

※ 御芳名(敬称略)

一、漁協系統募金(系統扱い寄附金を含む)

〔十月〕▽岡山県漁連(以下県連又は協議会略)▽岩手県(田代スイ・田代三郎氏香典返し)▽京都府

〔十一月〕▽山形県(魚住政喜香典返し)▽長崎県▽岩手県(陸中宮古青年会議所)▽山口県

〔十二月〕▽石川県▽神奈川県▽岩手県(県立宮古病院釣クラブ一同)

▽岩手県(農中盛岡支所)▽福島県▽愛知県▽千葉県▽大分県▽京都府▽広島県▽静岡県(一市民)

二、一般寄附

〔十月〕▽赤平正健▽函館水高同窓会北鳳会東京支部▽樺田チヨ(樺田拓治氏香典返し)▽大都会魚類株式会社(社長長谷川秀雄)▽漁船保険振興対策協議会▽松風喜美栄(三浦市「洋からの便り」売り上げ)

〔十一月〕▽全日本海員組合(組合長村上行示)▽安田生命保険相互会

(社)▽大阪魚市場株式会社(社長久井四十一)▽大阪東部水産物株式会社▽大栄太源株式会社(社長尾張治一郎)▽松風喜美栄(三浦市「洋からの便り」売り上げ)▽全日海千葉支部▽千葉船員サービスセンター▽沢田久雄(東京魚市場卸同組合理事長・藍綬褒章受賞者)▽伊藤春次(中央魚類株式会社相談役)

〔十二月〕▽(財)魚価安基金▽漁業共済基金▽(財)中央漁業操業安全協会▽香住漁業調整事務所▽全漁連名古屋冷凍工場▽(財)海洋生物環境研究所▽全国漁業共済組合連合会▽全漁連境港油槽所▽全漁連購買部・公害対策室・海苔海藻部・漁政部・監事室▽漁協経営センター▽全漁連八戸油槽所▽全水振興株式会社▽全漁連金沢油槽所▽全漁連油質研究所▽全漁連大船渡油槽所▽北海道区水産研究所▽瀬戸内海漁業調整事務所▽根本殖(成田魚市場株式会社社長・蔵父香典返し)▽東北区水産研究所▽水産庁長官岡安誠▽水産庁建設課・漁船研究室・開発普及課・沖合漁業課・遠洋漁業課・水産流通課・漁場保全課・計画課・沿岸漁業課・長官官報課・漁業保険課・防災海岸課・国際課・漁船課・協同組合課▽南西海区水産研究所▽全漁連大阪のり流通センター▽全漁連企画開発部・組合経営推進部▽北海道漁業調整事務所▽全漁連海苔海藻類養殖研究センター▽全国水産業協同組合共済会・同募金箱▽水産庁企画課▽新潟漁業調整事務所▽全漁連東京支所▽高山隆三(慶応義塾大学)▽(財)漁場油濁被害救済基金▽環境庁中前明▽全漁連塩釜冷凍工場▽漁業信用基金中央会▽福井キヨ(全日海経由)

▽全日海三崎支部▽宝洋海運産業K K奈良丸船長吉田幸吉▽匿名により▽水産庁海洋漁業部長杉浦昭▽(財)漁船海難遺児育英会▽農林中央金庫▽合沢洋子▽中央漁業信用基金▽全漁連九州のり流通センター▽漁船同盟▽三崎船員組合▽波崎漁民組合▽水産庁真珠研究所

以上

都道府県別奨学生数

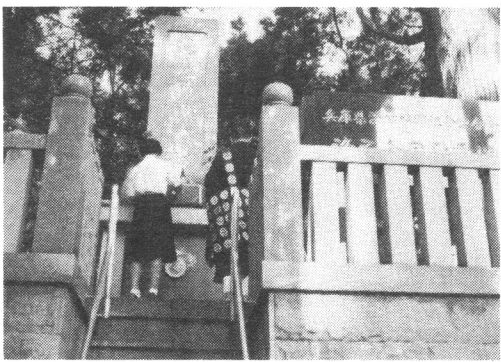
(昭和52年12月末現在)

県 名	学資給与奨学生			奨学金 貸与高校生	合 計	52年度第3回新規採用者			
	小学生	中学生	小 計			小学生	中学生	(貸与)高校生	計
北 海 道	171	222	393	51	444	9	1	—	10
青 森	102	102	204	43	247	1	—	—	1
岩 手	76	96	172	45	217	—	—	—	—
宮 城	58	89	147	20	167	4	1	—	5
秋 田	2	6	8	1	9	—	—	—	—
山 形	28	26	54	19	73	—	—	1	1
福 島	32	44	76	17	93	—	2	1	3
茨 城	10	24	34	7	41	—	—	—	—
千 葉	38	16	54	5	59	1	1	—	2
東 京	6	5	11	—	11	—	—	—	—
神 奈 川	6	12	18	8	26	—	—	—	—
新 潟	25	36	61	7	68	2	—	—	2
富 山	14	12	26	6	32	—	—	—	—
石 川	20	17	37	8	45	1	—	—	1
福 井	4	6	10	3	13	1	1	—	2
静 岡	16	27	43	16	59	—	—	—	—
愛 知	12	15	27	5	32	—	—	—	—
三 重	16	24	40	15	55	—	1	—	1
京 都	1	—	1	2	3	—	—	—	—
大 阪	6	3	9	—	9	—	—	—	—
兵 庫	13	22	35	16	51	—	—	—	—
和 歌 山	7	12	19	5	24	—	—	—	—
鳥 取	17	14	31	8	39	—	—	—	—
島 根	23	18	41	9	50	—	—	—	—
岡 山	8	2	10	2	12	—	—	—	—
広 島	2	4	6	3	9	—	—	—	—
山 口	45	44	89	22	111	—	—	—	—
香 川	11	11	22	11	33	—	—	1	1
徳 島	11	16	27	13	40	—	—	—	—
愛 媛	18	18	36	11	47	—	—	—	—
高 知	31	31	62	11	73	—	—	—	—
福 岡	20	22	42	2	44	2	1	—	3
福岡県有明海	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佐賀県玄海	10	9	19	—	19	2	1	—	3
佐賀県有明海	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長 崎	111	104	215	34	249	4	2	1	7
大 分	10	15	25	3	28	—	—	—	—
熊 本	7	5	12	4	16	—	—	—	—
宮 崎	18	18	36	4	40	—	—	—	—
鹿 児 島	26	23	49	17	66	—	—	—	—
沖 縄	2	—	2	—	2	—	—	—	—
合 計	1,033	1,170	2,203	453	2,656	27	11	4	42

兵庫県漁婦連の活動

兵庫県漁婦連は、漁船海難遺児を励ます運動を積極的に推進し、募金活動では第一次・第二次募金とも目標額を上回る原動力となった。

婦人部の活動は地味ではあるが、本年度は、県内の遺児達の心に残るなにかを——と考へ、去る八月二十六日、二十七日の両日、県下漁業関係物故者が合祀されている高野山「漁友鎮魂之塔」を参拝した。



「漁友鎮魂之塔」参拝

高野山参拝

兵庫 県

小四 浜戸 周作

「参拝行事を行った。これからは、遺児達が漁業後継者としての道を歩むことに誇りをもち、明るくすこやかに成長してくれることを願って、五カ年計画で募金を行い、父母の眠る地高野山への参拝をはじめ、毎年進学時には励ましの心をこめて、ささやかでも贈りものをしたく準備を進めている。(兵庫県漁連指導課)」

くれました。兵庫県の漁民いらいとうに行きました。どうかが長くてつかれた。大人四人でかかえられるぐらいの太いすぎの木が何本もあった。はかは、まだまっさらでじょうさんがさかなをだいていたのもあった。ぼくは、おばあちゃんに言った。「このはかの中になが入ったの」と聞いた。おばあちゃん「入っている」と言いました。おばうさんが、おきようを言っている間おばあちゃんとせんこうをそなえました。ぼくは、お父さんが、こんないいおはかをしてもらってうれしくてたまりませんでした。ぼくは、おまいりしてよかったなあと思いました。ぼくは、心の中でみんな元気でいくらしが、できるようにとおねがいした。ぼくは、お父さんのかわりにおじいちゃん、おばあちゃん、お母さん、妹、みんなをしあわせにしてあげたいと心にちかいました。

七時十四分の特急はまかぜに乗っておばあちゃんとおきと高野山に行き、遍照光院にとまりました。朝おとめがあつた。本堂でおばうさんが、おきようを言ったりシンバルのようなかねをならしていました。ぼくは、せいざをして聞いていました。おとめがすんでから本堂案内をして

励ましの便りから

(前略) 思えば父の実弟が、海難事故で若き三十数才の生涯を、故郷相馬の海に閉じこめて十七年の歳月が流れました。(中略) 今はいとこ達も皆社会人となり、長男は理解あるお嫁さんと三人の男子に恵まれ、十七年の荒波を乗り越えた一家が、当然報われるべき平穏な日々を過ごしております。

しかもおじが残した二人の男子が、共に結局海に生きる仕事を選んだ事は、何の縁でしょうか。愛する父を奪った海でありながらも、なお引き寄せられる大いなる力を海は持っているに違いありません。

勿論、海難事故は、これからさき一件とてあつてはならぬ悲劇とは存じますが、今その人生のいたずらに見舞われた方々にも、その勇気とフアイトに何か答える日が訪れることと、信じます。文集を拝見いたしました。今立ち上がるうとなさつていらつしやる方々には、その確信をもち、悲しみにあられる方々には、お励ましの気持ちをこ

系統通信

めて「ガンバレ!!」と声援を送ります。深く謝意を表します。そして私の如き恵まれ過ぎた人間は、皆様方がお持ちの何物かを、きつと欠いているに違いありません。その意味でも意義深く読ませていただきました。おば一家の一親族として、海国日本の一国民として、又一船乗りの子として、育英会のお仕事、佐藤幹児先生に

あけましておめでとうございます。本年も、よろしく御協力の日ほどお願い申し上げます。

◎おかげをもちまして、昭和五十二年事業は、継続奨学生に対する学資給与金、奨学貸与金とも次のとおり送金し、五十三年一月一日付け採用となる第四回新規採用奨学生への送金を二月下旬をめどに行い、終了します。

第一回送金 六月十三日
四月より九月 六カ月分
第二回送金 九月十二日
継続者 十月十二月 三カ月分
新規者 七月十二月 六カ月分
第三回送金 十二月六日
継続者 一十月三月 三カ月分
新規者 十月三月 六カ月分

◎新年度準備のお願い
一、小学校一年に入学した者には、小学校入学新規奨学生記念品(略称入学祝金)を贈呈します。この祝金は、年度第一回願書締切り(五月十五日)まで出願した者に限る規定になっているので、特に、御留意下さるようお願いいたします。

二、なお、昨年の給与奨学生の願書提出者のうち、すでに兄又は姉が奨学生になっており、その弟又は妹も当然該当するの、入学して何年も経ってから出願してきた例が、かなりありました。この点新年度にあたり、もれのないよう確認をお願いします。

三、進級・進学手続きのうち、進級は本会の名簿で整理しますが、中学校進学者につきましては、進学した中学校を把握しておく必要がありますので、中学校在学証明書のみ従来ど

おり提出願います。
四、この三月には、四三六名が中学を一七五名が高校及び水産高校専攻科を卒業します。これらの者に対し、昨年同様、進路状況報告を後便でお願いいたしますのでよろしく願います。
中学卒業者の進路状況は、高校等進学と就職に分け、高校進学者には同時に本会奨学貸与金の貸与希望の有無を取ります。この報告は、高校又は大学等への進学率及び就職状況を把握し、今後の事業推進のうえで重要な基礎資料にするとともに、育英事業の成果の確認でもあります。
報告用紙は、新年度の奨学生願書類と併せて、近くお送りします。
なお、御承知のとおり昨年度までの貸与事業は、残念ながら伸びませんでした。その原因の一つとみられる貸与月額も、関係者の御努力により、五十三年度・高校入学者から、なんとかアップできるのではないかと見通しがたつてきました。四月一日発行の本紙で確認できるよう努力しております。

五、いよいよ奨学貸与金の返還が、新年度から本格化します。初めてのことでいろいろお手数を煩わすことと思ひますが、よろしく願ひします。

後記

新年おめでとうございます。事務局一同心からお喜び申し上げます。第七号の編集が少しくれ、皆さんのところにとどくのが二月に入つてしまつと、気にしながらまわりました。御投稿下さった方々に、厚くお礼申し上げます。次号は四月です。(手島)

全国の仲間たち

これまでの学資給与が奨学金貸与にかわり、この手続き等は、近く漁協又は本人に直接連絡します。

上表の右欄の昭和五十二年度第三回新規採用者は、第二回願書締切り以降十月末までに出席し、新たに奨学生になった四二名です。左欄は、今回採用者を含めた総奨学生の都道府県別一覧表です。

五十二年度の採用は第四回目(二月末締切)を残しておりますが、五十三年度第一回締切りは五月十五日です。三月に中学をめでたく卒業される奨学生は四三六名、この中の八割をこす人が高校進学されると推定されます。どうぞ、頑張つて下さい。高校生になると、